

多くの学生さんにとって、この時期は卒業や進級を控え、来年度への期待と不安が交錯しているでしょう。卒業や進級は喜ばしいことです。しかし、失うものもあります。とくに卒業の場合は、来年度から社会で求められる役割や、ライフスタイルが大きく変わります。もう自由じゃない、などと嘆きたくもなるでしょう。学生生活をどう過ごしたかで、感じ方は変わってきそうです。

## 失うものは、もっていたもの

卒業にともなって失うものはなんでしょう。自由な時間、サークルやバイトなどの課外活動、仕事の選択肢などでしょうか。実はこれらはどれも、社会人になっても失うわけではないのですが、日本の働き方の現状を考えると、「失う」と言ってしまうのも間違いではなさそうです。

それから、恩師や友達との関係も、失うわけではありませんが、これまでのようにはいつでも好きなように会えるわけではなくなります。

さて、こうして挙げてみると、失うものはどれも、学生生活の中でもらっていたものだとも言えます。大切なものだからこそ、失うことが重くなるのですね。



## 寂しさから、自覚へ

大切なものを失うのは寂しいことです。もし、学生生活で得た経験や人間関係が心の中に実感として根付いていれば、失うことは寂しくても、またきっとおもしろい経験ができる、よき出会いに恵まれるだろうという希望を持って歩みだすことができるでしょう。また、今度は自分がよい経験を与える側になったり、誰かにとっての大事な人になるのだという自覚も芽生えそうです。

しかし、学生生活でのよい経験や大切な出会いも、喜んで受け取っていなかったり、「自分なんかにもったいない」という後ろめたさがあったりして、心の中に根付いていないと、それはただなくなってしまうものです。

失うと思ったけど、実はもうもっていた。このことが、もらったものを次へつなぐという自覚を促し、寂しい別れを責任ある一歩へとつないでくれるのでしょう。

